



京セラ株式会社 2021年3月期 第2四半期 決算カンファレンスコール  
(2020年10月29日実施)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 2021年3月期上期 決算概要>

<2. 2021年3月期上期 決算概要>

上期は、新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、前年同期に比べ減収減益となりました。売上高は12.9%減少の6,960億円、営業利益は60.1%減少の241億円、税引前利益は43.4%減少の482億円、当期利益は42.4%減少の344億円となりました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ2円円高の107円、対ユーロは横ばいの121円となり、これにより売上高は約60億円、税引前利益は約10億円、押し下げられました。

<3. 2021年3月期上期 業績サマリー>

上期のサマリーを3点、ご説明します。

1点目は、新型コロナウイルス感染症による主要市場での需要の減少です。自動車関連市場の生産活動停滞を受け、「電子デバイス」を中心に部品の需要が減少しました。また、ドキュメント市場では、オフィスへの出勤抑制に伴い、機器や消耗品の需要が減少しました。

2点目は、5G及び通信インフラ関連部品の需要増です。5G対応スマートフォンや基地局向けに水晶・SAWデバイス用セラミックパッケージが、また、データ通信量の増加により、通信インフラ向け光通信用セラミックパッケージの需要が増加しました。

3点目は、M&Aによる売上貢献です。前期に買収したサザンカーソン社やフリアテック社のセラミック事業に加え、今期に連結子会社化した昭和オプトロニクス社の売上貢献により、「産業・自動車用部品」セグメントの売上高は約140億円増加しました。

<4. 2021年3月期上期 事業セグメント別売上高>

事業セグメント別の売上高は、「産業・自動車用部品」及び「半導体関連部品」は、前年同期比ほぼ横ばいとなりましたが、他のセグメントは減収となりました。

#### <5. 2021年3月期上期 事業セグメント別利益>

利益につきましては、減収を主因に全セグメントで減益となりました。

#### <6. 2021年3月期第2四半期 決算概要>

第2四半期、3か月間の業績は、期初の想定どおり第1四半期に比べ改善し、売上高は19.5%、営業利益は117.7%増加しました。

なお、税引前利益及び当期利益は減益となっておりますが、これは、第1四半期に保有株式の受取配当金を計上しているためです。

#### <7. 2021年3月期第2四半期 業績サマリー>

第2四半期のサマリー1点目は、第1四半期を底に、主要市場での需要が回復したことです。自動車関連市場では、自動車の生産活動回復に伴い、「電子デバイス」を中心に部品の需要が増加しました。また、ドキュメント市場では、市況が回復した地域において機器及び消耗品やサービスの需要が回復しました。

2点目は、スマートフォン向け部品の需要増です。スマートフォンの新モデル向けにイメージセンサ用セラミックパッケージやセラミックコンデンサ、水晶部品などの売上が増加しました。

#### <8. 2021年3月期第2四半期 事業セグメント別売上高>

第2四半期の売上高は、全てのセグメントで増加しました。特に、第1四半期に大きく減少した「電子デバイス」は26%、「ドキュメントソリューション」は30%、それぞれ増収となりました。

#### <9. 2021年3月期第2四半期 事業セグメント別利益>

利益につきましても、増収を主因に全てのセグメントで増益となりました。

#### <10. 2021年3月期上期 事業セグメント別業績（1）産業・自動車用部品>

事業セグメント別にご説明します。スライドの左側には上期の前年同期比を、右側には第2四半期の3ヵ月を第1四半期と比較しています。

「産業・自動車用部品」は、左側の当上期は自動車関連市場の低迷の影響を主因に、前年同期に比べ売上高は横ばい、利益は減少しました。

右側の四半期比較では、第2四半期は車載カメラや切削工具などの自動車関連部品の需要回復に加え、6月に実施した光学部品のM&Aによる貢献もあり、第1四半期と比較し、増収増益となりました。

#### <11. 2021年3月期上期 事業セグメント別業績(2) 半導体関連部品>

「半導体関連部品」は、左側の当上期は5G関連製品が伸びたものの、車載向け有機多層ボードの低迷により、前年同期と比較し売上は横ばい、利益は減価償却費などの増加もあり、減益となりました。

一方、右側の第2四半期は、スマートフォン向けセラミックパッケージや、通信インフラ向け有機多層パッケージなどの需要が増加したことから、第1四半期と比べ、増収増益となりました。

#### <12. 2021年3月期上期 事業セグメント別業績(3) 電子デバイス>

「電子デバイス」は、左側の上期比では減収減益となりました。AVX Corporationの売上が、自動車関連市場をはじめとする主要市場での需要減により減少したことが主な要因です。

右側の第1四半期比では、市場の回復に伴い、AVX Corporationの売上が第2四半期に増加したことに加え、スマートフォン向けセラミックコンデンサや水晶部品などの需要も伸びたことから、増収増益となりました。

#### <13. 2021年3月期上期 事業セグメント別業績(4) コミュニケーション>

「コミュニケーション」は、左側の上期は、通信機器事業及び情報通信サービス事業ともに前年同期比減収減益となりましたが、事業利益率は前年同期と同水準を維持しており、事業体質が着実に改善しています。

右側の第2四半期は、新機種の発売により携帯電話の販売台数が増加したことに加え、エンジニアリング事業の売上也伸びたことにより、第1四半期と比べ、増収増益となりました。

#### <14. 2021年3月期上期 事業セグメント別業績(5) ドキュメントソリューション>

「ドキュメントソリューション」は、左側の上期比較では減収減益となりましたが、右側の四半期比較では、第2四半期は着実に回復し、利益は第1四半期に比べ約2.3倍となりました。

#### <15. 2021年3月期上期 事業セグメント別業績(6) 生活・環境>

「生活・環境」は、左側の上期比較では太陽光発電システムなどの販売減によりスマートエナジー事業の売上が減少したことから、前年同期に比べ減収となり、事業損失は増加しました。

右側の四半期比較では、第2四半期は、国内市場での経済活動の回復や営業活動が再開したことにより、第1四半期に比べ同事業の売上が増加しました。

以上が当上期の概要です。続いて、下期及び通期の業績予想についてご説明します。

**<16. (中表紙) 2021年3月期 業績予想>**

**<17. 2021年3月期下期の事業環境見通し>**

下期は、米中貿易摩擦による一部製品への影響が懸念されるものの、自動車関連市場やドキュメント市場など主要市場の回復を予想していることから、期初の想定通り、部品事業及び機器・システム事業ともに期末に向けて一層の需要回復を見込んでいます。

**<18. 2021年3月期 業績予想>**

通期のグループ全体の業績予想につきましては、上期までの進捗及び下期の見通しを踏まえ、4月の公表数値から変更はありませんが、セグメント別の予想については各事業の進捗を踏まえ変更しています。

**<19. 2021年3月期 事業セグメント別売上高予想>**

事業セグメント別の売上高予想は、前回予想と比較しますと、部品事業の売上高は増加を見込むものの、機器・システム事業については期初の想定を下回る見通しです。

**<20. 2021年3月期 事業セグメント別利益予想>**

利益予想については、上期の状況を主因に、部品事業、機器・システム事業ともに期初予想から減額を予想しています。

なお、「本社部門損益等」については、グループをあげて経費削減に上期より取り組んでいることから、期初予想を上回る見通しです。

**<21. 2021年3月期 事業セグメント別業績予想の主な修正要因>**

部品事業は、前回予想に比べ増収減益を予想しています。「産業・自動車用部品」及び「半導体関連部品」は、主要市場での需要回復等を主因に、売上は前回予想を上回る見通しです。事業利益は、両事業ともに上期の水準に鑑み、前回予想から変更はありません。

一方、「電子デバイス」は、下期は自動車関連市場の回復による需要増は見込まれるものの、米中貿易摩擦の影響により、売上、利益ともに期初予想には届かないものと予想しています。

機器・システム事業は、売上、利益ともに減額となる見通しです。「コミュニケーション」は、下期に携帯電話端末及び情報通信サービス事業ともに需要の回復を見込んでいるものの、上期実績を踏まえ売上は減額修正しました。一方、事業利益は、原価低減が上期より順調に推移しており、下期もさらなる効果が見込まれることから、上方修正しています。

「ドキュメントソリューション」は、第2四半期から需要は回復傾向にあるものの、売上、利益ともに、期初の想定には届かないものと想定しています。

先行き不透明な経済環境は継続していますが、当社は引き続き徹底したコスト削減及びさらなる生産性向上への取り組みを進め、通期業績予想の達成を目指します。

以上

#### **将来事象に関する注意事項**

当資料には、将来の事象についての2021年3月期第2四半期決算カンファレンスコール開催日(2020年10月29日開催)時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。